

大阪市消防局航空隊

- [1. 消防航空隊の概要](#)
- [2. 消防航空隊のあゆみ](#)
- [3. 保有ヘリコプターの性能](#)
- [4. 活動実績](#)
- [5. 活動内容](#)
- [6. 航空隊の所在地](#)

●消防航空隊の概要

大阪市消防局航空隊は、昭和45年に発足し大阪府下各市町村との共同運航を開始しました。航空隊は、消防局警防部警防課に所属し、基地は小型機の離発着回数が日本で一番多い八尾空港内にあり、機体は、中型ヘリコプター（AS365N3型ドーファンII／名称：おおさか、とAS365N2型ドーファンII／名称：なにわ）の2機を配備し、隊長1名、操縦士5名、整備士4名の計10名体制で火災、救助、救急等の航空消防活動を行っています。また、ヘリコプターの運航は災害活動に限らず、調査飛行や写真撮影、広報活動などの消防業務及び行政業務にも幅広く活用され、災害に備え日々訓練を行っています。

●消防航空隊のあゆみ

昭和45年	八尾空港内に消防航空隊基地を設置、ヒューズ式369HS 型「おおさか1号」を配置し、航空消防業務を開始
同 年	大阪府下市町村と航空消防応援協定を締結
昭和47年	京都・大阪・神戸の3市で京阪神航空消防相互応援協定を締結
昭和48年	京都・大阪・神戸の3市に名古屋を加え、4都市航空消防相互応援協定を締結
昭和51年	シュド式 SA316B アルウエットⅢ型「おおさか2号」を増強
昭和52年	テレビ電送システムを導入
昭和53年	東京都とテレビ電送業務に関する相互応援協定を締結
昭和54年	八尾空港付近に航空隊待機宿舎を建設
昭和59年	八尾空港整備計画に伴い、基地を移転、竣工
昭和62年	エアロスパシアル式 SA365N 型「おおさか3号」を増強
平成 3年	バングラデシュ人民共和国へ初の海外派遣
平成 4年	新規ヘリコプター、エアロスパシアル式 AS365N2型「なにわ」を導入するに伴い、「おおさか3号」を「おおさか」と命名
平成 7年	阪神・淡路大震災にて活動
平成12年	国内5例目及び7例目の臓器移植に係わる臓器搬送実施
同 年	九州・沖縄サミット特別警戒活動に参加
平成16年	タイ王国へ海外派遣
平成17年	新規ヘリコプター、エアロスパシアル式AS365N3型「おおさか」を導入

●保有ヘリコプターの性能

区分 \ 機体	おおさか AS365N3 ドーフアン II	なにわ AS365N2 ドーフアン II
座席数	13人	10人
全備重量	4,300kg	4,250kg
運用重量	2,703kg	2,570kg
有効搭載量	1,597kg	1,680kg
燃料搭載量	915kg	915kg
有償搭載量	612kg	625kg
航続時間	3時間20分	3時間20分
巡航速度	260km/h	254km/h
ホイスト能力	272kg	272kg
機外吊り下げ能力	1,600kg	1,600kg
キャビン面積	4.2m ²	4.2m ²

●活動実績

(平成18年中)

業務種別 \ 使用主体別		大阪市	大阪府	広域応援	航空隊	合計
災害	火災	回数	21	1	0	22
		時間	11:00	2:05	0:00	13:05
	地震等	回数	0	0	0	0
		時間	0:00	0:00	0:00	0:00
	救急	回数	4	0	0	4
		時間	5:05	0:00	0:00	5:05
	救助	回数	1	0	0	1
		時間	0:20	0:00	0:00	0:20
	情報収集	回数	1	0	0	1
		時間	1:55	0:00	0:00	1:55
小計	回数	27	1	0	28	
	時間	18:20	2:05	0:00	20:25	
災害以外	調査	回数	14	29	0	43
		時間	10:45	27:30	0:00	38:15
	広報	回数	2	22	0	24
		時間	2:35	29:35	0:00	32:10
	訓練	回数	50	39	2	91
		時間	58:15	40:55	3:25	102:35
	写真撮影	回数	14	3	0	17
		時間	11:15	2:30	0:00	13:45
	小計	回数	80	93	2	175
		時間	82:50	100:30	3:25	186:45
航空隊業務		回数			87	87

	時間				80:05	80:05
合 計	回数	107	94	2	87	290
	時間	101:10	102:35	3:25	80:05	287:15

※「航空隊業務」は、航空隊隊員の基本技術・応用技術の習得に必要な飛行及び機体の整備に必要な試験飛行をいう。

●活動内容

初のヘリ海外派遣

1991年にサイクロンで被害を受けたバングラデシュ人民共和国への国際緊急援助隊の派遣は、我が国の緊急援助隊史上初のヘリを伴っての海外派遣であった。

サイクロンは、最大風速65mの暴風と6～7mの高波が数時間にわたってバングラデシュ南東部の沿岸地域を襲ったもので、その被害は、死者13万人以上、流出・倒壊した家屋120万戸以上、ベンガル湾の漁船なども100隻以上が沈没という大規模なものであった。

現地での活動は、物資搬送及び人員輸送が主な任務であり、13日間にわたり緊急物資及び医薬品の搬送が約15t、人員輸送は245名にのぼり、猛暑と激しいスコールに見舞われながらの厳しい条件下での作業であったが、まさに「救助に国境なし」という言葉どおりの事案であった。



臓器搬送

平成9年10月16日、臓器の移植に関する法律が施行されてから、消防・防災ヘリ等による臓器搬送が実施されるようになった。

我が航空隊においても、平成12年3月29日に国内で脳死判定5例目となる臓器移植(心臓、肺)及び同年4月25日に国内で脳死判定7例目となる。

臓器移植(心臓)に関し、大阪国際空港から大阪大学医学部附属病院への臓器搬送を実施した。

沖縄サミットに参加

サミット消防特別警戒において、各国要人のヘリコプターによる救急搬送及びヘリテレによる情報収集の任務で、統括警戒本部の直轄隊として沖縄県名護市の群星荘(むりぶしろう)で警戒にあたることになった。

我が航空隊の AS365N2「なにわ」と東京消防庁航空隊の AS332L1「はくちょう」の2機が派遣されることになり、平成12年7月17日に両機とも現地に入り警戒が始まった。翌18日及び19日には、沖縄県消防学校で結団式を行い、現地事前訓練として地形判読訓練、また琉球大学病院においては、患者搬送訓練を行った。

サミット期間中は何事もなく、24日午前9時をもって警戒が解除となった。24時間体制での緊張勤務が続いたが、無事に任務を終えることができ、隊員一同、重責を果たした満足感と貴重な経験を得ることができた。

2度目のヘリ海外派遣

平成16年12月26日に発生したインドネシアスマトラ島西方沖地震で、地震、津波によりインドネシア、タイ、スリランカ等10カ国において十数万人以上の死者がでる大災害になった。

国際緊急援助隊の一員として、ヘリを伴った2度目の海外派遣であった。派遣期間は21日間にわたり、ピピ島、プーラトーン島、スリン島及びコウカウ島等の諸島部への緊急支援物資搬送21回 約5.8t、被害調査3回を実施した。

列車事故

平成17年4月25日、尼崎市で発生したJR福知山線の脱線事故でヘリテレによる情報収集及び傷病者2名の救急搬送を実施した。

●航空隊の所在地

〒581-0043

大阪府八尾市空港2丁目12番地

TEL 072-992-4900

FAX 072-991-0119